

賑岡地区住民福祉活動計画
(平成30年度～34年度)

つながり支えあおう！
みんな地域の一員！



賑岡地区社会福祉協議会

平成30年 3月

賑岡地区住民福祉5か年の活動計画

目標	課題		現在の活動		今後目指すべき目標とその活動	スケジュール(年度)					
			誰が	活動や事業の内容		30	31	32	33	34	
集いの機会	高齢者等	歩いて行ける範囲で集いの機会が無い サロン等へ行きたがらない人がいる 簡単にできる共通の遊びが無い 各事業の高齢者の参加が少ない 老人クラブに入らない人が多い サロンの男性参加が少ない 高齢者が介護サービス以外での外出の機会が少ない	地域の人 老人クラブ 地域の人 地域の人 老人大学 地区社協 地区社協 地区社協 公民館	サロン(6地区) お茶のみ、会合、奉仕活動等(7地区) サロン以外のお茶飲み会(1地区) カラオケ愛好会 趣味活動 福祉懇談会や研修会 買い物行楽事業 地域見守りマップ 生活文化の振興、社会福祉の増進等のための学習活動	1. 相談援助機能の強化 ・向こう三軒両隣の関係を強化する ・市社協地区担当との相談機能の連携を強化する 2. ふれあいサロンの充実 ・活動に関するPRの充実を図る ・活動資金の助成 3. 健康教室の開催(新) ・ボランティア人材による健康教室を実施する(市社協や市役所のノウハウ支援) 4. 福祉懇談会や研修会、公民館活動等の学びあう機会の充実 5. 買い物行楽事業の充実 ・運転ボランティア人材の拡充を図る ・活動に関するPRを行なう 6. 地域見守りマップの推進 7. 小地域ネットワーク会議等の開催(新) ・福祉の地域課題化を図るべく地域見守りマップ等を活用して行なう	→	→	→	→	→	
	子育て中の母親	小学校が廃校になったことで、子育て中の母親同士の交流拠点が無くなった				→	→	→	→	→	
	全世代	あまりふれあいが無い 集える場が無い 公園があるのに利用しない 少子高齢化による参加者の現状でイベントの維持が難しくなっている 集まりにくい				→	→	→	→	→	
向こう三軒両隣の関係づくり	一人暮らしの方	一人暮らしの方(高齢者も若い人も)へのアプローチ(訪問)が難しい	市社協 隣近所 地区社協 地区社協 地区社協 地域の人	民生委員による友愛訪問 向こう三軒両隣の声掛け あんしんカード 地域見守りマップ 住民福祉懇談会や研修会 小学生の登校の見守り	8. 相談援助機能の強化【再掲】 9. あんしんカード事業の充実 ・定期的な状況把握等を行なう(民生委員による老人福祉票の確認の際など) 10. 地域見守りマップの推進【再掲】 11. 小地域ネットワーク会議等の開催(新)【再掲】 12. 福祉懇談会や研修会の充実【再掲】 13. 笑顔であいさつ運動(新) ・各種広報活動による啓発	→	→	→	→	→	
	全世代	声をかける機会が無い 隣近所が離れている 隣近所の付き合いが少ない ゴミ出しや雪かきの手伝いの担い手不足 引きこもり等の独身男性(若年層)が意外に多い				→	→	→	→	→	
外出等移動支援と買い物弱者への支援	高齢者・障がい者	交通の便が悪い 移動手段が無い 地域に郵便局や農協が無い バスの本数が少ない 公共施設が遠い 医療機関が遠い 歩行困難な方がいる 坂道が多く大変 商店が無く、買い物が不便 買い物する場所まで時間がかかる コンビニが無い	地区社協 市社協 地域の人 市福祉課 あいおいケア すみや 松の屋 沼津の魚屋 はなざく 生協 市社協	買い物行楽事業 福祉車両貸出事業(要運転手) 身内や友人が乗せてくれる(らしい) おでかけパス 生活支援サービス 移動販売 移動販売 移動販売 移動販売 移動販売 おおつき地域のお助け隊	14. 相談援助機能の強化【再掲】 15. 買い物行楽事業の充実【再掲】 16. 小地域ネットワーク会議等の開催(新)【再掲】						※注:【再掲】の活動(取組み)に関しては、スケジュールは省略してあります
地域の将来へ向けた組織づくり等	全世代	少子高齢化が進み、組織の維持が難しくなっている 話し合いの機会や場所が少ない 組織の役員等後継者の減少	役員 消防団 サロン 公民館	参加等の声かけや働きかけ 参加等の声かけや働きかけ 参加等の声かけや働きかけ 参加等の声かけや働きかけ	17. 地域の組織のメリットを伝える(区会自治会や消防団等の活動成果を可視化する) 18. 区会自治会において未加入者であっても地域行事の参加を拒まず(特に子供など)、逆に積極的に参加を呼び掛ける。 19. 福祉懇談会や研修会、公民館活動等の学びあう機会の充実【再掲】	→	→	→	→	→	
	働き世代	働き世代の通勤時間が長くなり、地域活動への参加が難しくなっている 結婚しない人が多い				→	→	→	→	→	
情報の収集と発信	全世代	防災無線が聞こえない 頼れる人の有無の情報不足 高齢者などの不在や入院の情報が不足している 福祉活動でプライバシーの保護の問題がネックとなっている	地区社協 地区社協 地区社協 地区社協	ご近所たすけあいメッセージボード 広報誌「賑岡の住民福祉」発行 地域見守りマップ(地域の井戸端会議として) 近隣社協や小学校との福祉啓発活動	20. 情報の見える化に努める(広報誌の発行等、広報活動) 21. 地域について話し合う機会を増やす、近所ネットワークの充実を図る(地域見守りマップを活用して地域の井戸端会議を行なう) 22. 福祉啓発活動(ご近所たすけあいメッセージボード) 23. 近隣社協や小学校との福祉啓発活動(プランター植栽活動)	→	→	→	→	→	
安心と安全	全世代	雪が降った時の市道の除雪が大変 災害時の連絡や避難の確認方法が確立されていない 高齢ドライバーの増加 防災の不備地が多い	地域の人 地区社協 地区社協 市社協	除雪機(地区によって) 地域見守りマップ(地域における話し合いの機会として) あんしんカード おおつき地域のお助け隊	24. 相談援助機能の強化【再掲】 25. あんしんカード事業の充実【再掲】 26. 地域見守りマップの推進【再掲】 27. 小地域ネットワーク会議等の開催(新)【再掲】	→	→	→	→	→	
	高齢者・障がい者	雪かきの手伝いの担い手不足				→	→	→	→	→	

地域住民の皆さんへ

- ◆ 地域住民同士、互いに認め合いましょう
- ◆ 地域住民同士、互いに出来ることから助けあいましょう
- ◆ 地域見守りマップを活用して地域の情報を整理し、助けあい活動に取り組みましょう
- ◆ 地域住民同士、普段から声を掛け合いましょう
- ◆ 一人がひとり、地域内のほんの些細なことにも気かけましょう
- ◆ 一人ひとりが、向こう三軒両隣のことを大切にしながら見守り合いましょう
- ◆ 地域住民同士、互いにあいさつをしましょう
- ◆ 一人ひとりが、健康づくりに努めましょう

【計画策定の経過】

住民福祉懇談会

開催日	参加人数
平成29年 2月 4日(土)	71名
平成29年12月 2日(土)	68名

役員会

開催日	参加人数
平成29年 5月13日(土)	29名
平成29年 9月 9日(土)	21名
平成29年12月 2日(土)	23名
平成30年 2月24日(土)	20名



策定にあたり…

この、住民福祉活動計画は平成28年度から29年度にかけて、住民福祉懇談会や役員会において積極的な議論を重ねるなど、地区内の延べ232名ものの方々のご協力をいただき完成いたしました。深く感謝申し上げます。

ここに掲げた目標とその活動に魂を入れるのは、住民の皆様以外にはありません。本計画の「地域住民の皆さんへ」の目指すところは「地域の皆が仲良く話して交流しましょう」が、原点になると思います。交流の中で話が弾めば、地域の課題などに対して「自分たちでこうしてみようか」と自発的主体的な福祉活動が生まれたり、時により社会福祉協議会への要望なども挙がるのではないのでしょうか。そしてそれらは、みんなこの住民福祉活動計画の一環になると考えます。

福祉(ふくし)とは…**ふだんのくらしをしあわせにする**
これに向かって賑岡地区という地域は「よくおしゃべりをする」・「活発な福祉活動がある」・「よく要望も出る」まちになると良いなと思っています。

平成30年3月

賑岡地区社会福祉協議会

会長 箭子 熙代司